

貯蓄の状況

1 概要

(1) 全世帯の貯蓄現在高は1690万円

平成15年平均の全世帯の1世帯当たり貯蓄現在高は1690万円で、前年に比べて0.1%の増加となった。年間収入は660万円で前年に比べて3.4%減少したことから、貯蓄年収比（貯蓄現在高の年間収入に対する比）は、9.0ポイント上昇し256.1%となった。

このうち勤労者世帯についてみると、1世帯当たり貯蓄現在高は1292万円で、前年に比べて0.9%の増加となった。また、年間収入は721万円で、前年に比べて3.6%減少したことから、貯蓄年収比は、8.1ポイント上昇し179.2%となった。

全世帯及び勤労者世帯ともに、前年に比べて年間収入は減少したものの貯蓄現在高は増加している結果となった。

表1 年間収入及び貯蓄現在高の推移

年次	貯蓄現在高 (万円)	年間収入 (万円)	対前年増減率		貯蓄年収比 (%)	(参考) 生命保険などを除く貯蓄現在高 (万円)	対前年増減率 (%)
			貯蓄現在高 (%)	年間収入 (%)			
全世帯							
平成14年	1688	683	-	-	247.1	1241	-
平成15年	1690	660	0.1	-3.4	256.1	1249	0.6
勤労者世帯							
平成14年	1280	748	-	-	171.1	893	-
平成15年	1292	721	0.9	-3.6	179.2	909	1.8

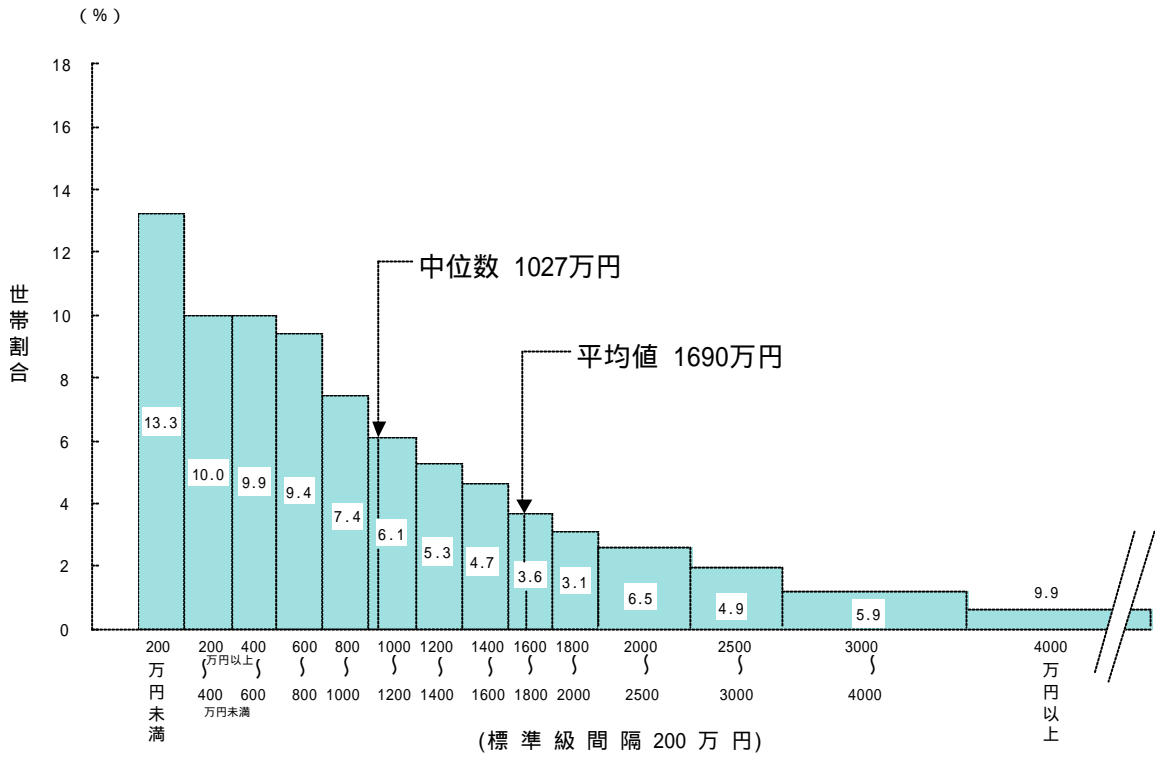
(2) 約3分の2の世帯が平均貯蓄現在高未満

全世帯について貯蓄現在高階級別の世帯分布をみると、貯蓄現在高が200万円未満の世帯が13.3%と最も多く、前年（13.0%）に比べて0.3ポイント増加した。また、約3分の2（67.8%）の世帯が平均値1690万円を下回り、世帯分布は貯蓄現在高の低い方に偏った分布となっている。なお、世帯全体を二分する貯蓄現在高の中位数は1027万円（前年1022万円）となっている。

このうち勤労者世帯についてみると、200万円未満の世帯が16.5%と最も多く、前年（15.4%）に比べて1.1ポイント増加し、67.8%の世帯が平均値1292万円を下回っている。

図1 貯蓄現在高階級別世帯分布

(全世帯)



(勤労者世帯)

